

資源管理型漁業推進総合対策事業

(地域重要資源：ウスメバル) 調査 — 抄録 —

※三戸 芳典・中田 凱久・※※白取 尚実

発 表 誌 名

平成4年度資源管理型漁業推進総合対策事業（地域重要資源）報告書平成5年3月青森県

抄 録（対象地域：小泊地区）

1. 漁獲統計調査

青森県の漁獲量は昭和53年に過去最高の1,000tを記録したが、平成3年には約240tまで減少した。海区別に見ると日本海で80%を占めており、特に小泊村が全県の70%を占めている。

小泊村の漁法別漁獲量では刺網の漁獲量が減少している。銘柄別では、「大」と「中」が漁獲の主体となっている。

2. 市 場 調 査

銘柄別尾叉長を調査した結果、「大」は23～33cm、「中」は20～28cm、「小」は18～26cm、「P」は15～22cmで、中と小の組成の重なりが大きい。

3. 魚体測定調査

耳石の測定から年齢と成長を推定した。Von Bertalanffyの成長式から、1才で11.9cm、2才で15.5cm、3才で19.0cm、4才で21.6cm、5才で23.5cm、6才で25.0cm、7才で26.1cm、8才で26.9cm、9才で27.5cm、10才で27.9cmとなった。

4. 回遊移動調査

赤色ディスクタグを装着した3才魚100尾を、下前沖水深44mの大型魚礁に放流した。これまでに、2尾の再捕があった。

※：現青森県水産部水産課

※※現青森県水産部漁政課